

0～3歳児を持つ母親の養育意識・行動に対する父親及び母親の性役割態度の影響（原著）

著者	玉里 八重子, 岡山 久代
雑誌名	滋賀医科大学看護学ジャーナル
巻	4
号	1
ページ	40-44
発行年	2006-03-15
その他の言語のタイトル	Influence of a father's and mother's gender role attitude on the mother's consciousness and action about bringing-up of their 0-3 year-old children
URL	http://hdl.handle.net/10422/844

0～3 歳児を持つ母親の養育意識・行動に対する 父親及び母親の性役割態度の影響

玉里八重子¹ 岡山久代²

¹滋賀医科大学医学部看護学科臨床看護学講座

²北里大学大学院看護学研究科博士後期課程

要旨

0～3 歳児を持つ母親の養育意識・行動に対する父親及び母親の性役割態度の影響について分析を行った。対象は、保健センターにて健康診査を受けた 0～3 歳児の父母 177 組とした。調査は、無記名自記式質問紙調査を横断的に実施し、調査内容は、養育意識・行動尺度（育児生活へのストレス 4 項目、育児肯定感 4 項目、及び否定的育児行動 4 項目）、育児負担感 4 項目、夫からのサポート感 5 項目、蓄積疲労徴候 18 項目（以上母親のみ回答）及び平等主義的性役割態度スケール 15 項目（父母回答）とした。分析は、従属変数を養育意識・行動、独立変数を父親と母親の性役割態度及びその他の変数として、強制投入法による重回帰分析を行った。その結果、母親の性役割態度は、否定的育児行動に対して有意な影響力を示したが、父親の性役割態度は、養育意識・行動のいずれの変数に対しても有意な影響力を示さなかった。

キーワード：母親の養育意識・行動，性役割態度，0～3 歳児，母親，父親

緒言

男女の性役割について、女性の意識が以前より平等志向的になり、「男は仕事、女は家庭」という伝統的性役割観が変化してきているが¹⁾、子育てにおいては、子どもの性別によって女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよいという伝統的な性役割感を支持する親は少なくない²⁾。

また実際の育児・家事の分担においても、父親よりも母親にかかる比重が伝統的に大きく、育児に携わる母親は、子どもを積極的に受け止めようとする一方で、育児生活にストレスを感じるというアンビバレントな状態にあると指摘されている³⁾。このことから、加藤ら⁴⁾は、母親の養育意識・行動を構成する 3 つの側面、すなわち育児生活へのストレス、育児肯定感、及び否定的育児行動の、アンビバレントな状態に注目した研究を報告している。

父親や母親の性役割感、子育ての基本方針となり、さらには子どもの性役割感の形成にも影響を及ぼす可能性があり、海外では親の性役割態度と育児行動との関連が報告されているが⁵⁾、わが国においては十分に検討されていない現状がある。そこで今回、0～3 歳児を持つ母親の養育意識・行動に対する父親及び母親の

性役割態度の影響について検討することを目的に本調査を行った。

研究方法

1. 対象

対象は、平成 14 年 4 月に I 市保健センターにて 4 か月児、1 歳 6 か月児、3 歳児のいずれかの健康診査を受けた児の父母とした。

2. 調査方法

本調査は横断的調査とした。各健康診査に来所した保護者に調査の主旨を説明し、同意の得られた対象に、研究依頼文及び無記名自記式質問紙を配布した。自宅で記入して頂き、郵送にて回収した。回収数は 602 組（回収率 29.4%）であり、父母ともに有効回答であった 167 組（有効回答率 27.7%）を分析の対象とした。

3. 調査内容

調査に用いた変数を表 1 に示した。母親のみに回答を求めた変数は、養育意識・行動尺度⁴⁾の 3 つの側面である育児生活へのストレス 4 項目、育児肯定感 4 項目、及び否定的育児行動 4 項目、さらに育児負担感⁶⁾ 4 項目、夫からのサポート感⁷⁾ 5 項目、蓄積疲労徴候⁸⁾ 18 項目とした。一方父親・母親ともに回答を求めた変数は、平等主義的性役割態度スケール¹⁾ 15 項目とした。

4. 分析方法

SPSS 12.0 J for Windows を用いて、記述統計及び推測統計を行った。信頼係数には Cronbach の係数、

次に母親の性役割態度 High 群(平等主義的, 平均得点+1/2 SD 以上) と Low 群(伝統主義的, 平均得点 - 1/2 SD 以下) の 2 群における養育意識・行動の平均得

表1 各変数の特性

	変数	測定内容	回答・得点	項目数	Cronbach's
養育意識・行動 (加藤ら2001)	育児生活へのストレス	日常繰り返しされる育児生活から感じられる閉塞感や、母親自身が思うようにならないストレス、漠然としたいらいら感など	全然あてはまらない(1点) ~ よくあてはまる(5点)	4	0.78
	育児肯定感	子どもそのものを積極的に受けとめ、育児を楽しんでいる肯定的な感情や期待	得点が高いほど育児生活へのストレス、育児肯定感、否定的育児行動は高い		0.80
	否定的育児行動	ちょっとしたことで子どもを叱ったり、たたきつけるなど、否定的にあらわれる育児行動や、自分を責めたりくよくよ考え込むなど、自分の育児への否定的評価			0.69
平等主義的性役割態度 スケール短縮版 (鈴木1994)	父親の性役割態度	性役割に対して一貫して好意的もしくは非好意的に反応する学習した傾向	全然そう思わない(1点) ~ まったくそのとおりだと思う(5点)	15	0.83
	母親の性役割態度	平等主義 = それぞれ個人としての男女の平等を信じること	得点が高いほど性役割に対して平等的、低いほど伝統的	15	0.86
その他の変数	育児負担感 (池田2001)	母親が子どもの世話をすることと自分の欲求との間に不調和を生じた時に感じた内容	負担に思わなかった(1点) ~ とても負担に思った(4点) 得点が高いほど育児負担が高い	4	0.82
	夫からのサポート感 (坂間ら1999)	妻が感じる夫からのサポートの感覚	全然あてはまらない(1点) ~ よくあてはまる(5点) 得点が高いほどサポート感が高い	5	0.91
	蓄積疲労徴候 (山崎ら1992)	蓄積疲労を示す心身症状の訴え	あてはまらない(0点) ~ あてはまる(1点) 得点が高いほど疲労が強い	18	0.82

平均得点の比較には student *t* test、相関は Pearson の相関係数、また重回帰分析には強制投入法を用いた。

5. 倫理的配慮

倫理的配慮として依頼文には、本研究への参加は任意であること、無記名であるため研究参加同意書は作成せず、同意が得られた場合にのみ回答・返送して頂き、これを持って研究への参加同意とすること、得られた個人情報及びデータの保護を徹底すること、調査協力の有無に関わらず対象に利益・不利益が生じないことを明記した。

結果

1. 対象の属性

対象の属性を表 2 に示した。平均年齢は父親が 32.9 ± 5.1 歳、母親が 30.2 ± 4.0 歳であった。また 41 人 (24.5%) の母親が仕事を持っていた。

2. 各スケールの信頼性の検討

各スケールの信頼係数である Cronbach の係数を表 1 に示した。全てのスケールは $\alpha = 0.69$ 以上であり、内的整合性による高い信頼性が確認された。

3. 父親と母親の性役割態度得点の比較

父親と母親の性役割態度の平均得点の比較を行った。結果を表 2 に示した。性役割態度の平均得点は父親が 46.8 ± 9.1、母親が 53.4 ± 9.0 であり、母親の方が有意に高く ($p < 0.001$)、つまり父親よりも母親の方が性役割に対して平等主義的であることが示された。

4. 母親の性役割態度高低における養育意識・行動の比較

表2 対象の属性と各変数の項目数、平均値、最小 - 最大値

	変数	平均値	最小 - 最大
属性	父親の年齢	32.9 ± 5.1	20-50
	母親の年齢	30.2 ± 4.0	18-41
	子どもの人数	1.6 ± 0.7	1-3
	長子年齢	2.3 ± 2.2	0-12
	末子年齢	0.8 ± 1.0	0-3
	母親の仕事の有無 家族形態	有職: 41人 (24.5%) 無職: 126人 (75.4%) 核家族: 130人 (77.8%) 大家族: 37人 (22.2%)	
養育意識・行動	育児生活へのストレス	12.1 ± 3.4	4-20
	育児肯定感	16.9 ± 2.7	8-20
	否定的育児行動	11.4 ± 3.6	4-20
平等主義的性役割態度 スケール	父親の性役割態度	46.8 ± 9.1	20-68
	母親の性役割態度	53.4 ± 9.0	30-72
その他の変数	育児負担感	13.4 ± 3.8	4-20
	夫からのサポート感	18.9 ± 5.0	5-25
	蓄積疲労徴候	7.6 ± 4.2	0-18

N=167, 単位: 点, student *t* test, *** $p < 0.001$

点の比較を行った。結果を図 1 に示した。母親の養育意識・行動のうち、否定的育児行動に有意な差が示され ($p < 0.05$)、伝統主義的母親は平等主義的母親に比べて、否定的育児行動が有意に高いことが認められた。同様に父親の性役割態度の High 群と Low 群についても分析を行ったが、いずれの変数においても有意な差は示されなかった。

5. 養育意識・行動に対する重回帰分析の結果

次に養育意識・行動に対する父親及び母親の性役割態度の影響について分析を行った。結果を表 3 に示した。はじめに養育意識・行動と各変数間の Pearson の

相関係数を算出した。養育意識・行動の3つの側面と、父親及び母親の性役割態度には有意な相関は示されなかったが、その他の変数はいずれかの側面と有意な相関が示されていた。本研究においては、養育意識・行動の3つの側面に対する父親及び母親の性役割態度とその他の変数の影響力の比較を行うため、本研究で用いた全ての変数を独立変数とすることが妥当であると判断した。しかし各変数間のPearsonの相関係数を算出したところ、子どもの人数と長子年齢の相関が $r=0.73$ ($p<0.001$)と高く、多重共線性の可能性が推測された。そこで今回は、従属変数を、養育意識・行動の3つの側面、独立変数を、養育意識・行動のうち各分析の従属変数を除く2つの側面、父親と母親の性役割態度、育児負担感、夫からのサポート感、蓄積疲労徴候、子どもの人数、及び末子年齢として、強制投入法による重回帰分析を行った。

その結果、育児生活へのストレスへの有意な影響要因は、育児肯定感 ($\beta = -0.23$, $p<0.001$)、育児負担感 ($\beta = 0.30$, $p<0.001$)、夫からのサポート感 ($\beta = -0.35$, $p<0.001$)、蓄積疲労徴候 ($\beta = 0.18$, $p<0.01$) であっ

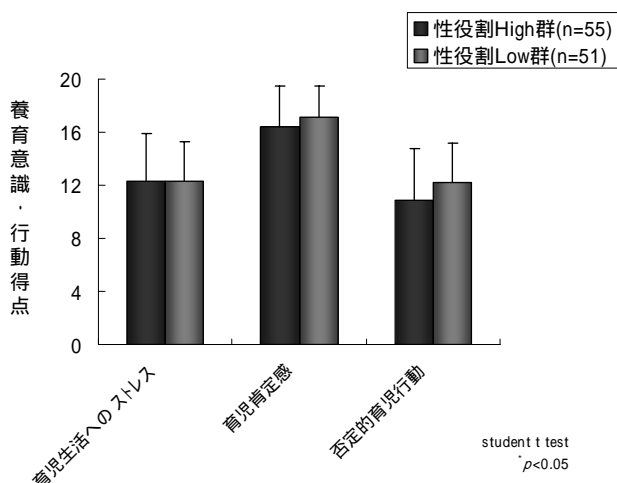


図1 母親の性役割態度高低における養育意識・行動の比較

た (調整済み $R^2 = 0.50$)。また育児肯定感への有意な影響要因は、育児生活へのストレス ($\beta = -0.36$, $p<0.001$)、否定的育児行動 ($\beta = -0.19$, $p<0.05$)、子どもの人数 ($\beta = -0.19$, $p<0.05$) であった (調整済み $R^2 = 0.21$)。一方、否定的育児行動への有意な影響要因は、育児肯定感 ($\beta = -0.16$, $p<0.05$)、母親の性役割態度 ($\beta = -0.15$, $p<0.05$)、蓄積疲労徴候 ($\beta = 0.20$, $p<0.05$)、子どもの人数 ($\beta = 0.29$, $p<0.001$)、末子年齢 ($\beta = 0.21$, $p<0.01$) であった (調整済み $R^2 = 0.30$)。つまり母親の性役割態度は、否定的育児行動に対して有意な影響力を示したが、父親の性役割態度は、養育意識・行動のいずれの変数に対しても有意な影響力を示さなかった。

考察

1. 父親と母親の性役割態度得点の比較

昨今の性役割に関する議論は、対人関係や家族関係および社会関係の各レベルの生活を規定する要素として多様に論じられて来た。制度的にも男女参画への推進や、男女雇用機会均等に関する法的制度の成立から久しい。しかし、その社会意識は、西欧の産業革命に依拠する資本主義的家父長制度を形成した歴史経過の中で、伝統的性別役割を強固に存続させ、地域的文化社会的にも大きな差異を形成してきたといえる。

このジェンダーの課題が母性の健康や母子関係や家族形成のあり方に大きく影響することは、看護分野の研究において周知の事柄である。近年、男女の性役割が以前よりも平等志向的になりつつあるといわれているが¹⁾、1970年代の母親によってほとんどの家事・育児・教育関連の作業が行われていた役割構造と現在を比較してみても、基本的なパターンの変化はないという報告もある⁹⁾。さらに、内閣府、2004年による男女共同参画白書¹⁰⁾では、日本はジェンダー開発指数 144

表3 母親の養育意識・行動に対する重回帰分析の結果

	育児生活へのストレス		育児肯定感		否定的育児行動	
	標準偏回帰係数 ()	Pearsonの相関係数 (r)	標準偏回帰係数 ()	Pearsonの相関係数 (r)	標準偏回帰係数 ()	Pearsonの相関係数 (r)
育児生活へのストレス	-	-	-0.36***	-0.36***	0.15	0.36***
育児肯定感	-0.23***	-0.36***	-	-	-0.16*	-0.35***
否定的育児行動	0.10	0.36***	-0.19*	-0.35***	-	-
父親の性役割態度	-0.04	-0.7	0.02	0.01	0.04	-0.04
母親の性役割態度	-0.03	0.01	-0.14	-0.08	-0.15*	-0.14
育児負担感	0.30***	0.56***	0.08	-0.19*	0.05	0.30***
夫からのサポート感	-0.35***	-0.47***	-0.15	0.08	0.03	-0.14
蓄積疲労徴候	0.18**	0.44***	-0.05	-0.19*	0.20*	0.28***
子どもの人数	-0.01	0.18*	-0.19*	-0.27**	0.29***	0.35***
末子年齢	-0.07	0.22	-0.12	-0.12	0.21**	0.20*
重相関係数	0.73		0.50		0.58	
調整済み R^2	0.50		0.21		0.30	

N=167, 強制投入法, *** $p<0.001$, ** $p<0.01$, * $p<0.05$

カ国中 13 位、ジェンダーエンパワーメント指数は 70 カ国中 70 位という状況である。本調査においても、対象である 30 歳代前半の親に移行した集団においては、母親よりも父親の方が性役割に対して伝統主義的であることが示された。

これらの研究から概観すれば、調査対象の地域的文化的背景や属性の差異を考慮しても、性役割観や態度は親への移行によって、現実的な伝統的社会意識へと変化する可能性があると思えることも出来る。今後、実証的な研究に繋げる必要があるといえる。

2. 母親の養育意識・行動と父親・母親の性役割態度

本研究においては、まず、父親の性役割態度は母親の養育意識・行動に影響を及ぼさなかったが、母親の性役割態度は否定的育児行動に負の影響力、つまり性役割態度が伝統主義的であるほど否定的育児行動が高くなることが示された。母親の育児ストレスの要因である伝統的規範と育児の不満足感や不全感との関連も報告されており⁷⁾、女性の性役割態度が育児行動を規定するものと考えられる。

一方、父親・母親の性役割態度は育児生活へのストレスや育児肯定感に直接的な影響力を示さなかった。しかし、養育意識・行動の 3 つの変数は互いに関連しており¹¹⁾、また育児に携わる母親は、子どもを積極的に受け止めようとする一方で、育児生活にストレスを感じるというアンビバレントな状態にある³⁾と指摘されていることから、間接的な影響力が予測される。

さらに、本調査において母親の養育意識・行動に対する母親の性役割態度の有意な影響力は示されたものの、その値は低い結果であり、性役割態度のみで母親の養育意識・行動を説明することはできない。この理由の 1 つとして、前述した間接的な影響力には焦点をあてていないことがまずはあげられるが、本来母親の養育意識・行動を規定する要因は今回の調査で用いた変数にとどまるものではないからである。先行研究においても母親自身のパーソナリティや取り巻く環境など多面的に分析が行われている^{7,12)}。母親への育児支援に向け、母親自身の性役割態度に注目しつつ、その他の影響要因についても調査を深めていく必要があるといえる。

結論

本調査により、父親の性役割態度は、母親の養育意識・行動と関連せず、これに影響を及ぼさないことが明らかになった。一方、母親の性役割態度は、養育意識・行動の一つである否定的育児行動に影響を及ぼすことが明らかとなった。「男は仕事、女は家庭で家事・育児を担当するのが望ましい」といった一見理想的な

母親像を目指す伝統的性役割態度が強い母親の場合、自身の役割意識により育児に困難をきたしてしまう可能性が示唆された。母親への育児支援を検討する場合、従来から指摘されている属性、父親の育児・家事分担、サポートの状況等に加え、母親の性役割態度を含め検討する必要があるといえる。

文献

- 1) 鈴木淳子：若年女性の平等主義的性役割態度と就労との関係について - 就労経験および理想の仕事キャリア・昇進パターン，社会心理学研究，11(3):149-158，1996.
- 2) 結婚情報サービス協議会調査：朝日新聞，12 月 5 日付，1998.
- 3) 柏木恵子，若松素子：親になることによる人格発達．生涯発達の視点から親を研究する試み，発達心理学研究，5：72-8，1994.
- 4) 加藤道代，津田千鶴：育児初期の母親における養育意識・行動の縦断的研究，小児保健研究 60(6)：780-786，2001.
- 5) McHale SM, Huston TL: Men and women as parents, sex role orientations, employment, and parental roles with infants, Child Dev, 55(4): 1349-61, 1984.
- 6) 池田浩子：育児負担感に関する研究 - 育児負担感の時期別変化と母親の心理状態との関連 -，母性衛生，42(4)：607-614，2001.
- 7) 坂間伊津美，山崎喜比古，川田智恵子：育児ストレスの規定要因に関する研究，日本公衆衛生雑誌，46(4)：250-262，1999.
- 8) 山崎喜比古：質問項目と例文．東京大学医学部保健社会学教室（編），保健・医療・看護調査ハンドブック，111-120，東京大学出版会，東京，1992.
- 9) 目黒依子，柴田弘捷：企業主義と家族．目黒依子，渡辺秀樹（編），講座社会学 2 家族，75 - 76，東京大学出版会，東京，1999.
- 10) 佐々木緑：女性のリプロダクティブヘルス/ライツ，村本淳子，高橋真理，女性のライフサイクルとナースィング，40，HIROKAWA，東京，2005.
- 11) 加藤道代：津田千鶴宮城県大和町における 0 歳児を持つ母親の育児ストレスに関わる要因の検討，小児保健研究，57(3)：439，1998.
- 12) 清水嘉子，西田公昭：育児ストレス構造の研究，日本看護研究学会雑誌，23(5)：55-67，2000.

Influence of a father's and mother's gender role attitude on the mother's consciousness and action about bringing-up of their 0-3 year-old children

Yaeko Tamari¹, Hisayo Okayama²

¹ Shiga University of Medical Science

² Graduate School of Nursing, Kitasato University

We conducted a study on the influence of a father's and mother's gender role attitude on the mother's consciousness and action about bringing-up of their 0-3 year-old children. The subjects were 177 sets of parents of the 0-3 year-old child who took a medical examination at the health center. A cross-sectional, anonymous, and self-recording questionnaire was used for collecting data, which included Bringing-up consciousness / action measure (4 items of Stress to childcare life, 4 items of Feeling of childcare affirmation, and 4 items of Negative child-rearing action), 4 items of Feeling of a childcare burden, 5 items of Feeling of support from a husband, 18 items of Cumulative Fatigue Symptoms (only mother answered above), and 15 items of Equalitarianism-gender role attitude scale (parents answered). Multiple regression analyses were employed, and the Bringing-up consciousness / action measure was its dependent variables, and the Equalitarianism-gender role attitude scale and other variables were its independent variables. As a result of the analyses, it was proved that although a mother's Gender role attitude showed significant influence on Negative child-rearing action, a father's Gender role attitude did not show significant influence on any variable of Bringing-up consciousness and action.

Key Words: parental role, nurturing behavior, infant, young child,